

GOTO NORIKO

後藤紀子

ごとうのりこ

<https://kisosaki-gotonoriko.com>



議会一般質問

現在までの後藤紀子の
一般質問です。

- 福祉医療費助成について
- 病児保育の受け皿を町内へ
- 人口減少と空き家問題について
- スクールバスの導入について

詳細は裏面をご参照ください。

木曽岬町議会議員 後藤紀子です。
「もっと住みやすい町にしたい」
「町民の意見をもっと聞いて欲しい」

その思いだけで議員に立候補しました。

長女と次女を出産し、産休・育休へ突入。子育ての大変さを知りました。年子育児の大変さで退職を決意し、この頃から社会の子育て中の親への対応に不満を感じ始めました。派遣として働き始めると世の中で言われている派遣への扱いを実感し、政治に興味を持ち始めました。なんの後ろ盾もない状態での立候補に嫌な噂話は絶えませんでした。「言われるのは仕方がない。仕事ぶりを見てもらうしかない。」と心に決めた議員1年目でした。徐々に嬉しい声も届き、手応えを感じ始めた2年目。3年目に入り、悩むことも増えました。一議員がどこまで出来るのか、どうしたらより良く変えていけるのか、そんなことを考え続けています。「できる事を1つずつ確実に」これからもコツコツと1歩ずつ進んでいきます。一人の町民としての気持ちをそのままに、議員として戦い続けています。

後藤紀子の3つの公約

1

子どもが輝く木曽岬へ
未来を支える子ども達がまん
なかで主役になれるようにし
ます！

2

どこよりも住みやすい町へ
偏見や差別のない、誰もが住
みやすい町になるよう働きか
けます！

3

議会の見える化の実現へ
わかりやすく風通しの良い議
会を目指します！

福祉医療費助成について

福祉医療費助成における現物給付方式の対象を拡張をすべきではないかと思い質問させていただきました。

- 現状、0歳～6歳までの子どもに於いては現物給付方式を取っておりますが、7歳以上の子どもや高齢者・障がい者に於いては未だ償還払い方式を取っている為、窓口での支払いが必要となっています。
- そのお金が戻ってくるのは2～3ヶ月後で、ひと月の間に何度も病院へ行かなければいけない状況となると、家計にもかなり響いてきます。償還払いは振込手数料やそこに関わる人件費など税金の無駄も多いと考えられます。
- 殊更木曾岬町は子どもに手厚い町で、すぐにでも取り入れるべきだと考えております。私個人としてはなぜ取り入れないのか、調べれば調べるほど疑問に思っています。住民の満足度の向上と無駄を省くために、是非とも現物給付方式の対象の拡張をお願いしました。

病児保育の受け皿を町内へ

親が安心して仕事に行けるよう、こども園で病児保育を受け入れられる環境を整備して貰えるよう質問させていただきました。

- 現在、町内で病児保育を受け入れている場所はなく、町が委託している桑名市内2箇所の医療機関へ連れて行くことになり、預かってもらえるかはその時の空き状況にもよります。
- こども園の登園を控える基準は体温が37.5度以上で、37.5度という熱はすぐに出てしまいます。子どもは数時間で熱が下がることも少なくないにも関わらず、仕事を休まなければならず、周囲の理解を得られず仕事を辞めざるを得なくなる話もよく耳にします。
- そこで親が安心して仕事に行けるよう、こども園で病児保育を受け入れられる環境を整備して貰うことをお願いしました。町内には二つの医療機関がありますので、何かあった際には来てもらえるよう連携を図ることも可能かと思います。



メールアドレス

noricopy@gmail.com

ホームページ

<https://kisosaki-gotonoriko.com>

人口減少と空き家問題について

定住化の問題について、以前新築を建てる際に不動産業者との連携を図っていくとの答弁されていたことに質問しました。

- 木曾岬町に住もうと思った時に、インターネットで賃貸物件を探してみると7軒のアパートと2軒の一軒家しか、出てきておらず、家を建てて住むための土地を探してみてもほとんど出てきません。建売住宅も特になく、この状況でも住みたいと思える人が何人いるのでしょうか。
- 町内を見回してみると、明らかに住んでいない家がたくさんあります。しかし情報としては出てきていません。三重県の空き家バンクのホームページに空き家情報もありませんでした。空き家をそのまま放置しておくのも危険ですので、活用するのが一番だとは思います。
- 幾度となく定住化の問題が議題に上げられており、その度に計画はある・空き家の実態を調査するとのことでしたが、その後の進捗について質問しました。

スクールバスの導入について

子どもたちの安全を考え、スクールバスの導入についてトマッピーバスの利用を検討いただきたいと質問しました。

- 年々少なくなる子どもの数ですが、それに伴い小学生の集団登校が厳しくなってきた地区も多くなり、ご近所の地区と徐々に合併をしています。合併することもままならない地区では、集団登校は叶わず一人での登校という地区も今後多くなるだろうと推測できます。
- 下校時は、途中までは友達と帰ることもできるかもしれませんが、どうしても一人になってしまう箇所があると思います。冬は日が短く、最近は不審者情報も耳にすることが増え、交通事故の可能性が上がることを考えるとスクールバスは必要だと思うのです。
- 肝心のスクールバスですが、トマッピーバスを利用して、上下校中の児童は無料でバスに乗る方式でのスクールバスの導入をお願いしました。